

10月のさろんテーマ

もっと南牧村を語ろう



先月開催した群馬県南牧村の「スローライフ・フォーラム」の議論を、もっと深めようという今月の「さろん」。フォーラムの写真報告などを見ながら、南牧村の抱える普遍的な課題を、フォーラムに参加したアドバイザーの方々、各地からの参加者のご意見をもとに話し合いました。(以下、議論の要約です)

■南牧村とフォーラムの印象

さろん出席者のほとんどはフォーラムに参加した方々。南牧村の印象とフォーラムの感想を語ってもらいました。

- ・日本一高齢化の村と聞いていたが、子どもたちと若いお父さん、お母さんがたくさん参加していてよかった。
- ・南牧村は村民たち全体が仲が良く、うらやましい。
- ・南牧村が消滅リストの2、3番手ではなく、トップであることは却って幸運。話題にしてもらえる良さがある。
- ・人口問題をテーマにしたフォーラムを体験し、村民にも「なんとかしなくちゃ」という機運が生まれた。
- ・フォーラムを機に村役場の機構改革も行われ、提案実行型の組織づくりがスタートした。
- ・南牧村のようなフォーラムを自分のまちでも宣伝する。

■南牧村への提案

出席者からは南牧村の人口減を解消するたくさんアイデアが出されました。

〔まず、子どもたちに知ってもらおう〕

- ・小学生に南牧村に来てもらい、村の自然になじみ南牧村を浸み込ませることから始めてはどうか。

〔川を生かして都市と地元がふれあう場づくり〕

- ・子どもは川遊びが大好き。川を生かして若者や大人も含め都会住民と村人が交流する仕掛けを作る。

〔女性ファンづくり〕

- ・全国には力があっておせっかいな中高年女性がたくさんいる。南牧村おばさん応援団をつくるなど、ファンづくりをしてどうか。

〔こんにゃくを徹底的にアピールする〕

- ・こんにゃくの良さを掘り下げ、発祥の地を徹底的に謳い、情報発信するとよい。
- ・富岡のこんにゃくの方が美味しそう。発祥の地といっているだけではだめ。商品化の努力が大事。
- ・ハートのこんにゃく、ピンクのこんにゃくなど、

「南牧村を『ちびっ子の遊ぶ里』へ」開催概要

開催日時：2014年9月13日(土)13:30分~17:10
プログラム

- ◎基調講演「むら・まちの未来を考える」
増田寛也(野村総合研究所顧問・スローライフ学会会長)
- ◎テーブルトーク
「ちびっ子万歳」「さきがけ政策」「仕事おこし」
「空き家活用」「東京都スクラム」
- ◎まとめトーク

参加者数：240人(うち町民170名)

もっとこんにゃくをアピールする。

〔昭和の暮らしを体験できる場があるとよい〕

- ・民俗資料館は昭和好きな人にはたまらない魅力。
- ・民俗資料館に置いてあったようなブラウン管テレビ、古いトースター、お釜などがあり、昭和の生活が体験できる家があると、人気ができる。
- ・有名観光地の真似をせず、来た人にどうやって村の魅力を発見してもらうかを考えるとよい。

〔昭和の暮らしを体験できる場をつくろう〕

- ・田舎に住みたいと思っても、最初からそこに定住せよというのは、ハードルが高い。
- ・いろいろな地域を、数か月お試して暮らす体験ができる全国お試し移住体験ネットワークがあるとよい。実際にそこで暮らし、相性を考えて選べば失敗も少ない。

〔待ってるだけでは駄目。アクションを〕

- ・待っているだけでなく、情報発信し、さまざまな受け入れのしかけを考え、アクションをおこさないと無理。

〔よそ者歓迎の気持ちがないと…〕

- ・よそ者が入ってくることを喜んでいるだろうか。受け入れられている気風がないと、人はやってこない。

〔村出身者を村につなぐ工夫を〕

- ・群馬が好きで、東京に職場があるが地元にはスポーツクラブをつくり、月に一度は帰っている。村出身者をもっと地域に帰らせる工夫が、あとで効いてくるはず。

〔南牧愛と南牧定住のバランスは〕

- ・役場職員が村外に住居を求めていると聞いた。南牧愛と村への定住のあり方を、もっと議論したほうがよい。

〔むらづくりビジョンがほしい〕

- ・その場しのぎの場当たり策でなく、むらづくりの将来ビジョンに基づき、長期的視点にたった対応策が必要だ。(2014年10月21日開催)

南牧村の次のステップに向けて、会員の皆様からのご意見、提案をお待ちしています。